

尺度使用マニュアル

< 尺度名 >

「BIS/BAS 尺度 日本語版」 (「行動抑制系・行動賦活系尺度 日本語版」)

< 測定概念 >

Gray(1970, 1981, 1982, 1987)は、彼自身の気質モデル、強化感受性理論(Reinforcement Sensitivity Theory; RST)の中で、人間の行動は2つの大きな動機づけシステムの競合によって制御されると述べ、Behavioral Inhibition System(行動抑制系; 以下 BIS)と Behavioral Activation System(行動賦活系; 以下 BAS)の2つを定義している。

BIS は、罰の信号や欲求不満を引き起こすような無報酬の信号、新奇性の条件刺激を受けて活性化される動機づけシステムで、潜在的な脅威刺激やその予期に際して注意を喚起し、自らの行動を抑制するように作用する。BAS は、報酬や罰の不在を知らせる条件刺激を受けて活性化される動機づけシステムで、目標の達成に向けて、行動を解発する機能を担うとされる。

< 適用範囲 >

中学生以上。ただし、中学生に適用する際は、場合によってはふりがなをふることが望ましい。

< 尺度構成手続き >

Carver and White(1994)が作成した BIS/BAS Scales のうち無関連項目を除く 20 項目について日本語訳を行った。翻訳は独立した2者間を著者らが仲介して行うバック・トランスレーション法によって行われた。

BIS は、罰の回避傾向を示す計 7 項目から成る。また、BAS は報酬への接近傾向を示す 3 つの下位尺度、計 13 項目から成る。駆動(Drive; 以下 D)は、望まれる目標への持続的な追求に関連する 4 項目、報酬反応性(Reward Responsiveness; 以下 RR)は、報酬の存在や予期に対するポジティブな反応に焦点を当てた 5 項目、刺激探求(Fun Seeking; 以下 FS)は、新奇な刺激や報酬刺激に対して思い付きで接近しやすい傾向を反映する 4 項目からそれぞれ構成されている。無関連項目以外については、項目の追加・削除は一切行っていない。

< 信頼性 >

内的一貫性は BIS: $\alpha = .80$, BAS: $\alpha = .81$ 。BAS の下位次元については D: $\alpha = .76$, RR: $\alpha = .63$, FS: $\alpha = .65$ (高橋ら, 2007)。再検査信頼性(2.25年)は BIS: $r = .63$, BAS: $r = .59$ (Takahashi et al., 2007)。

< 妥当性 >

大学生 446 名を対象とした質問紙調査において、BIS は NEO-FFI の神経症傾向・外向性、TCI の損害回避・新奇性追求と予測された相関パターンを示した(それぞれ $r = .85$, $r = -.44$, $r = .77$, $r = -.20$; いずれも $p < .01$)。BAS も NEO-FFI の神経症傾向、外向性、TCI の損害回避、新奇性追求とほぼ予測された相関パターンを示した(それぞれ $r = -.07$, n.s., $r = .35$, $r = -.31$, $r = .46$; 有意な相関係数はいずれも $p < .01$)。因子的妥当性の詳細については文献参照のこと。

<尺度の使用について>

教示文は、「以下の項目について、あなた自身がどれくらいあてはまると感じるかをお聞きします。「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「少しあてはまる」「あてはまる」の4つのうち、どれが最もあなたに近いかを選び、それぞれの文章の後にある数字を○で囲んで下さい。」

教示文の多少の変更は認められるが、項目及び4件法は改変すべきではない。また、下位尺度を単独もしくは複数抜き出して用いることは可能。

<採点方法>

回答方法は、「1 = あてはまらない」、「2 = あまりあてはまらない」、「3 = 少しあてはまる」、「4 = あてはまる」の4件法。

下位尺度得点は、以下の項目の単純合計(BIS: 7項目 BAS: 13項目)。ただし、BISに関して1, 18の2項目は逆転項目。BASは以下の通りさらに3つの下位次元に分けて算出することも可能。

BIS: 1(R), 6, 10, 13, 15, 18(R), 20

BAS: 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 11, 12, 14, 16, 17, 19

D: 2, 7, 9, 17

RR: 3, 5, 11, 14, 19

FS: 4, 8, 12, 16

<出典文献>

高橋雄介・山形伸二・木島伸彦・繁榊算男・大野裕・安藤寿康. (2007). Grayの気質モデル-BIS/BAS尺度日本語版の作成と双生児法による行動遺伝学的検討- パーソナリティ研究, **15**, 276-289.

Takahashi, Y., Yamagata, S., Kijima, N., Shigemasu, K., Ono, Y., & Ando, J. (2007). Continuity and Change in Behavioral Inhibition and Activation Systems: A Longitudinal Behavioral Genetic Study. *Personality and Individual Differences*, **43**, 1616-1625.

高橋雄介・繁榊算男. (2008). 罰の回避と報酬への接近の感受性を測定する3尺度の比較. パーソナリティ研究, **17**, 72-81.

<連絡先>

高橋雄介 (京都大学) E-mail: yusukextakahashi@gmail.com

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

本尺度の研究・教育目的における使用は自由かつ無料ですが、使用する際は著者までご一報いただくとありがたいです。また、本尺度を使用し、論文文化を行う際には適切な引用をお願い致します。